

本学部の留年に関する検討

The students who are not allowed to graduate in our faculty

植 田 千 晶 (心理学教室)

Chiaki UEDA

最近の10年間、国立の教員養成大学・学部は学部再編成の波に襲われた。それは今後も続きそうな情勢である。本学部でも、学生定員270名のうち100名分を、教員免許の取得を卒業要件としない課程（新課程：以下本学部の通称に従ってB課程と略記）に振替え、平成元年度に文化社会、生産科学の2つの課程を設置した。学生定員は、教員養成課程（A課程と略記）が170名、B課程が100名という構成になったが、その体制はわずか7年で終り、平成8年度には生産科学課程の学生定員40名分を新設のシステム工学部に移管し、さらにA課程からB課程へ20名分を振替えて、B課程を単一の総合科学課程へと再編成した。平成9年度の本学部は、総定員230名、内訳はA課程150名、B課程80名という構成になっている。その間に、大学院修士課程の設置、カリキュラムの改革など、大きな改革が相次いだ。しかも、現在の体制で安定したわけではなく、全国的に教員養成定員の削減が論議されるなど、これから先も改革を模索しなければならない状況におかれている。

こうした変革は、われわれの学部の内発的な問題意識に基いてなされたというより、社会情勢の変化や政府の指導による、上からの改革という性格が強いものであった。それ故、学生も、教官も、事務官も、とまどいながら新しい体制への適応を試行錯誤してきた感がある。本稿は、この著しい変動の時期にあって、本学部の学生が教育に関する諸制度に適応しているかどうかを検討することを目的とし、その1つの手がかりとして、留年に関する資料を整理し、問題の所在を探ろうとするものである。

検討の対象としたのは、平成4～8年度の卒業判定資料と、平成4～9年度の進級資料である。2種類の資料は、卒業および進級に関する（取得単位数などの）量的情報に限られていて、学生一人ひとりの個人的な問題は記載されていない。従って、本稿で取り扱うのは本学部の全般的な傾向についてである。平成4年度というのは、本学部にとって転換点をなした年であった。B課程が最初の卒業生を送り出し、専門課程へ進む3回生に初めて進級制度を導入した。平成10年度からは学部定員とB課程の編成が変わるので、平成4～9年度の進級資料には、1つの体制の総合的な意味があると思われる。

留年の2つの関門：進級と卒業

周知のことであるが、大学生の留年には2つの場合がある。専門課程へ進級できない場合（教養留年：制度として留年という呼称が用いられる時にはこれを指すようであるし、大学設置基準の改正以来、教養課程の存在はあやふやになっているので、単に留年と略称する）と、最短修養年限で卒業しない、またはできない場合（卒業遅延・卒業延期）とである。専門課程に進級しな

ければ、その分だけ卒業時期が遅れることになるので、留年は必然的に卒業遅延に含まれる。一方、4回生が4年目の学年末を迎えても卒業しない、またはできない場合もあるわけで、本稿ではそれを卒業延期と呼ぶことにする。

1. 卒業遅延

(1) 全般的な傾向：平成4年度から平成8年度までの5年間、本学部では表1からわかるように、4～5人に1人が最短修養年限の4年を越えて在籍（卒業遅延）する状態が続いている。特に男性では3人に1人が卒業を遅延している。

遅延率は、B課程の初年度である平成4年度が12.5%と例外的に低い以外は、おおむね20%台前半で推移し、A B両課程間に大きな差は見られない。A課程を構成する小学校・中学校・養護学校、B課程を構成する文化社会・生産科学の合計5つの課程間で遅延率を比較すると、Aでは中学校課程が、Bでは生産科学課程が高く、Bの文化社会課程が低くなっている。Aの小学校課程は平均をやや下まわる程度であり、養護学校課程は母数が小さいためもあって変動が大きい。A課程の文系・理系・実技系の別に比較すると、理系の遅延率がやや高い。B課程の2つの課程をそれぞれ文系・理系とみなすならば、概して理系の遅延率が高いようである。

男女間で比較すると、男性の遅延率が際立って高く、時には半数を越える場合がみられるのに対して、女性はおおむね10%以下にとどまっている。留年率が男性に高いのは、留年問題が注目されるようになった昭和40年代から一貫して指摘されている傾向であって、ごく一般的な現象である。従って、上で取り上げた課程間、文系—理系間の遅延率の高低は、その課程や系に在籍する男女の比率を反映していると考えられることもできる。

(2) 修養年数別の遅延率の比較：表1は卒業判定時に供される資料であって、在籍4年以上の学生全員を母数としている。一般に、入学後4年目の学生に比べて、在籍5年以上になる過年度学生の方が、さらに卒業を遅延する割合が高いと予想される。つまり、卒業遅延経験者が全体の遅延率を引き上げている可能性が考えられるので、表2のように入学年度別の卒業遅延率を整理した。数値は入学後4年目の学年末に在籍している学生数を母数として、卒業した者、卒業しなかった者の数とその百分率である。それによると、平成元～5年度の入学生のうち、ほぼ6人に1人が卒業遅延を経験していることになる。

全国的な水準を示す資料は、文部省の学校基本調査報告書に掲載されている修養年数別の卒業状況であるが、そこでは入学者のうち非留年で卒業する者の比率はおおむね70%台の後半となっている。本学部の資料は、入学後の4年間に離籍した者を除外しているため、直ちに両者を比較することはできないが、経験的に4年間の離籍者を各入学年度で10名程度と仮定すると、本学部の非留年卒業者の比率はほぼ80%強となって、全国平均に比べてやや高いと判断することができる。一般に留年および卒業遅延は、私立大学より国立大学が高く、小規模校より大規模校が高い（岨中、1971）とされており、学部別では教育系は低いとされているので、国立小規模大学の教育学部である本学部の標準を定め難いのであるが、本学部の卒業遅延が際立って問題になるほど高いものではないと考えることはできる。

表2の数値を表1と比較してみると、全般的に遅延率が5%程度低くなっていることがわかる。A B両課程、5つの下位課程、A課程の系、男女、いずれも遅延率の高低は同じ傾向を示してい

表1 年度別卒業遅延率の推移 (平成4～8年度卒業生)

		在籍者計			卒業予定者計			卒業遅延予定者計			遅延率(%)		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部全体	H4	180	133	313	129	118	247	51	15	66	28.3	11.3	21.1
	H5	199	121	320	133	111	244	66	10	76	33.2	8.3	23.8
	H6	214	116	330	142	110	252	72	6	78	33.6	5.2	23.6
	H7	193	135	328	120	128	248	73	7	80	37.8	5.2	24.4
	H8	190	143	333	127	132	259	63	11	74	33.2	7.7	22.2
A課程全体	H4	121	96	217	78	85	163	43	11	54	35.5	11.5	24.9
	H5	136	76	212	90	70	160	46	6	52	33.8	7.9	24.5
	H6	137	78	215	92	73	165	45	5	50	32.8	6.4	23.3
	H7	122	84	206	80	79	159	42	5	47	34.4	6.0	22.8
	H8	119	85	204	79	77	156	40	8	48	33.6	9.4	23.5
A・小学校	H4	75	55	130	54	51	105	21	4	25	28.0	7.3	19.2
	H5	90	44	134	64	41	105	26	3	29	28.9	6.8	21.6
	H6	82	46	128	60	43	103	22	3	25	26.8	6.5	19.5
	H7	77	53	130	57	51	108	20	2	22	26.0	3.8	16.9
	H8	72	47	119	51	43	94	21	4	25	29.2	8.5	21.0
A・中学校	H4	38	34	72	19	30	49	19	4	23	50.0	11.8	31.9
	H5	43	27	70	25	25	50	18	2	20	41.9	7.4	28.6
	H6	49	22	71	28	21	49	21	1	22	42.9	4.5	31.0
	H7	41	24	65	20	23	43	21	1	22	51.2	4.2	33.8
	H8	44	22	66	26	18	44	18	4	22	40.9	18.2	33.3
A・養護学校	H4	6	6	12	4	4	8	2	2	4	33.3	33.3	33.3
	H5	2	5	7	1	4	5	1	1	2	50.0	20.0	28.6
	H6	5	10	15	4	9	13	1	1	2	20.0	10.0	13.3
	H7	4	7	11	3	5	8	1	2	3	25.0	28.6	27.3
	H8	3	16	19	2	16	18	1	0	1	33.3	0.0	5.3
A課程・文系	H4	64	52	116	46	44	90	18	8	26	28.1	15.4	22.4
	H5	76	40	116	50	37	87	26	3	29	34.2	7.5	25.0
	H6	77	44	121	57	39	96	20	5	25	26.0	11.4	20.7
	H7	67	48	115	49	44	93	18	4	22	26.9	8.3	19.1
	H8	60	53	113	42	48	90	18	5	23	30.0	9.4	20.4
A課程・理系	H4	50	32	82	30	30	60	20	2	22	40.0	6.3	26.8
	H5	51	25	76	35	23	58	16	2	18	31.4	8.0	23.7
	H6	49	28	77	28	28	56	21	0	21	42.9	0.0	27.3
	H7	45	28	73	27	27	54	18	1	19	40.0	3.6	26.0
	H8	48	24	72	29	22	51	19	2	21	39.6	8.3	29.2
A課程・実技	H4	6	12	18	2	11	13	4	1	5	66.7	8.3	27.8
	H5	9	11	20	5	10	15	4	1	5	44.4	9.1	25.0
	H6	11	6	17	7	6	13	4	0	4	36.4	0.0	23.5
	H7	10	8	18	4	8	12	6	0	6	60.0	0.0	33.3
	H8	11	8	19	8	7	15	3	1	4	27.3	12.5	21.1
B課程全体	H4	59	37	96	51	33	84	8	4	12	13.6	10.8	12.5
	H5	63	45	108	43	41	84	20	4	24	31.7	8.9	22.2
	H6	77	38	115	50	37	87	27	1	28	35.0	2.6	24.3
	H7	71	51	122	40	49	89	31	2	33	43.7	3.9	27.0
	H8	71	58	129	48	55	103	23	3	26	32.4	5.2	20.2
B・文化社会	H4	26	33	59	22	29	51	4	4	8	15.4	12.1	13.6
	H5	26	38	64	22	36	58	4	2	6	15.4	5.3	9.4
	H6	37	25	62	23	25	48	14	0	14	37.8	0.0	22.6
	H7	34	42	76	25	40	65	9	2	11	26.5	4.8	14.5
	H8	27	43	70	20	42	62	7	1	8	25.9	2.3	11.4
B・生産科学	H4	33	4	37	29	4	33	4	0	4	12.1	0.0	10.8
	H5	37	7	44	21	5	26	16	2	18	43.2	28.6	40.9
	H6	40	13	53	27	12	39	13	1	14	32.5	7.7	26.4
	H7	37	9	46	15	9	24	22	0	22	59.5	0.0	47.8
	H8	44	15	59	28	13	41	16	2	18	36.4	13.3	30.5

本学部の留年に関する検討

表2 入学年度別卒業遅延率 (平成元～4年度入学生)

	在籍者			卒業予定者			卒業遅延予定者			遅延率(%)			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
H1入学生: 41期	139	124	263	114	112	226	25	12	37	18.0	9.7	14.1	
H2入学生: 42期	157	108	265	112	99	211	45	9	54	28.7	8.3	20.4	
H3入学生: 43期	160	108	268	117	103	220	43	5	48	26.9	4.6	17.9	
H4入学生: 44期	137	131	268	93	126	219	44	5	49	32.1	3.8	18.3	
H5入学生: 45期	132	137	269	104	128	232	28	9	37	21.2	6.6	13.8	
41期～45期合計	725	608	1333	540	568	1108	185	40	225	25.5	6.6	16.9	
A課程全体	41期	80	87	167	63	79	142	17	8	25	21.3	9.2	15.0
	42期	102	67	169	73	62	135	29	5	34	28.4	7.5	20.1
	43期	99	72	171	72	68	140	27	4	31	27.3	5.6	18.1
	44期	87	81	168	61	78	139	26	3	29	29.9	3.7	17.3
	45期	85	81	166	65	75	140	20	6	26	23.5	7.4	15.7
合計	453	388	841	334	362	696	119	26	145	26.3	6.7	17.2	
A・小学校	41期	57	50	107	45	47	92	12	3	15	21.1	6.0	14.0
	42期	75	41	116	55	38	93	20	3	23	26.7	7.3	19.8
	43期	59	43	102	46	40	86	13	3	16	22.0	7.0	15.7
	44期	57	51	108	43	50	93	14	1	15	24.6	2.0	13.9
	45期	56	45	101	44	42	86	12	3	15	21.4	6.7	14.9
合計	304	230	534	233	217	450	71	13	84	23.4	5.7	15.7	
A・中学校	41期	19	31	50	15	28	43	4	3	7	21.1	9.7	14.0
	42期	27	23	50	18	21	39	9	2	11	33.3	8.7	22.0
	43期	35	20	55	22	19	41	13	1	14	37.1	5.0	25.5
	44期	27	23	50	15	23	38	12	0	12	44.4	0.0	24.0
	45期	27	21	48	19	18	37	8	3	11	29.6	14.3	22.9
合計	135	118	253	89	109	198	46	9	55	34.1	7.6	21.7	
A・養護学校	41期	4	6	10	3	4	7	1	2	3	25.0	33.3	30.0
	42期	0	3	3	—	3	3	—	0	0	—	0.0	0.0
	43期	5	9	14	4	9	13	1	0	1	20.0	0.0	7.1
	44期	3	7	10	3	5	8	0	2	2	0.0	28.6	20.0
	45期	2	15	17	2	15	17	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合計	14	40	54	12	36	48	2	4	6	14.3	10.0	11.1	
A課程・文系	41期	43	50	93	35	43	78	8	7	15	18.6	14.0	16.1
	42期	62	33	95	43	31	74	19	2	21	30.6	6.1	22.1
	43期	55	41	96	43	37	80	12	4	16	21.8	9.8	16.7
	44期	50	45	95	38	43	81	12	2	14	24.0	4.4	14.7
	45期	44	50	94	36	47	83	8	3	11	18.2	6.0	11.7
合計	254	219	473	195	201	396	59	18	77	23.2	8.2	16.3	
A課程・理系	41期	34	25	59	26	25	51	8	0	8	23.5	0.0	13.6
	42期	35	24	59	26	22	48	9	2	11	25.7	8.3	18.6
	43期	35	26	61	23	26	49	12	0	12	34.3	0.0	19.7
	44期	30	28	58	21	27	48	9	1	10	30.0	3.6	17.2
	45期	35	23	58	24	21	45	11	2	13	31.4	8.7	22.4
合計	169	126	295	120	121	241	49	5	54	29.0	4.0	18.3	
A課程・実技	41期	3	12	15	2	11	13	1	1	2	33.3	8.3	13.3
	42期	5	10	15	4	9	13	1	1	2	20.0	10.0	13.3
	43期	9	5	14	6	5	11	3	0	3	33.3	0.0	21.4
	44期	7	8	15	2	8	10	5	0	5	71.4	0.0	33.3
	45期	6	8	14	5	7	12	1	1	2	16.7	12.5	14.3
合計	30	43	73	19	40	59	11	3	14	36.7	7.0	19.2	
B課程全体	41期	59	37	96	51	33	84	8	4	12	13.6	10.8	12.5
	42期	55	41	96	39	37	76	16	4	20	29.1	9.8	20.8
	43期	61	36	97	45	35	80	16	1	17	26.2	2.8	17.5
	44期	50	50	100	32	48	80	18	2	20	36.0	4.0	20.0
	45期	47	56	103	39	53	92	8	3	11	17.0	5.4	10.7
合計	272	220	492	206	206	412	66	14	80	24.3	6.4	16.3	
B・文化社会	41期	26	33	59	22	29	51	4	4	8	15.4	12.1	13.6
	42期	22	34	56	19	32	51	3	2	5	13.6	5.9	8.9
	43期	33	24	57	23	24	47	10	0	10	30.3	0.0	17.5
	44期	21	42	63	18	40	58	3	2	5	14.3	4.8	7.9
	45期	21	41	62	17	40	57	4	1	5	19.0	2.4	8.1
合計	123	174	297	99	165	264	24	9	33	19.4	5.2	11.1	
B・生産科学	41期	33	4	37	29	4	33	4	0	4	12.1	0.0	10.8
	42期	33	7	40	20	5	25	13	2	15	39.4	28.6	37.5
	43期	28	12	40	22	11	33	6	1	7	21.4	8.3	17.5
	44期	29	8	37	14	8	22	15	0	15	51.7	0.0	40.5
	45期	26	15	41	22	13	35	4	2	6	15.4	13.3	14.6

表3 卒業遅延回数別の卒業遅延率（平成4～8年度の合計）

	在籍者計			卒業予定者計			卒業遅延予定者計			遅延率(%)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
遅延なし(41～45期)	725	608	1333	540	568	1108	185	40	225	25.5	6.6	16.9
遅延1年(40～44期)	160	33	193	86	28	114	74	5	79	46.3	15.2	40.9
遅延2年(39～43期)	54	6	60	14	3	17	40	3	43	74.1	50.0	71.7
遅延3年(38～42期)	26	1	27	5	0	5	21	1	22	80.8	100.0	81.5
遅延4年(37～41期)	8	0	8	4	—	4	4	—	4	50.0	—	50.0
遅延5年(36～40期)	3	0	3	2	—	2	1	—	1	33.3	—	33.3

るものの、高低差はかなり小さくなっている。過年度学生に卒業遅延を繰り返す傾向が強いこと、その傾向は卒業遅延者の多い課程・系・性別で一層強いことがうかがえる。表1でB課程の平成4年度の遅延率が12.5%と例外的に低かったのは、これが初年度の卒業生で、過年度学生がいなかったためであろう。

過年度学生が卒業遅延を繰り返す傾向は著しく、平成4～8年度の各年度の過年度学生全体の遅延率は40～58%に及んでおり、男性では常に半数を越える。卒業遅延回数（修養年数）別に卒業遅延率を比較すると（表3）、2～3年卒業を遅延している者の遅延率が極めて高く、4年以上の遅延者では遅延率が低下することがわかる。在籍年数が長くなるにつれて、卒業を断念して離籍する者がいる反面、追い詰められた状況で努力に目覚めるからであろう。留年（ここでは留年+卒業遅延）者を短期留年と長期留年に分けて、両者を比較した岨中（1971）や高橋（1979）は、短期留年者は非留年者と等質的であって、長期留年者とは質的に異なると指摘している。その指摘に従えば、卒業遅延1年の中には短期と長期の双方が含まれ、40%の遅延率は2群の合成変数であると考えられよう。女性の遅延者はもともと15人に1人と少ないのであるが、たとえ4年で卒業できなくても、大多数は5年目に卒業している。在籍6年を越える者は1%未満である。

次に、表2から入学年度別に遅延率の推移をみると、進級制度が適用されていない平成元年度の入学生に比べて、進級制度初年の平成2年度入学生の遅延率が大きく増加している点が注目される。新制度の導入に伴って混乱のあったことと、その後徐々に鎮静化の方向にあり、新制度に適應して行く過程がうかがえる。

2. 専門課程への進級と留年

進級制度が導入された平成4年度から平成9年度までの6年間、年度別の進級率を表4のように整理した。体育実技2単位、外国語の必修12単位のうち8単位以上、総単位60以上が進級の条件である。さらに、卒業業績作成のためには専攻を決定し、2年間の指導を受ける指導教官を決定しなければならない。そこで、専攻あるいは指導教官から拒絶されれば専門課程に進級できないことになるが、進級条件を充足している学生がいずれの専攻にも受け入れてもらえないケースはほとんどないのが実情で、留年の原因はほぼ単位不足であると断定して差し支えない。この進級条件は、本学部を卒業するのに136単位を取得しなければならないことを考えれば、むしろ緩やかなものである。6年間の平均の進級率が約91%であるのは、大部分の学生にとって無理のない条件であることを示唆する。

留年率を卒業遅延と同様に、A B課程、それを構成する5つの課程、A課程の文系・理系・実

本学部の留年に関する検討

表4 入学年度別の進級率(42~47期:平成4~9年度に進級)

	在籍者			進級(%)			仮専攻(%)			留年(%)			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
学部全体	42期	159	110	269	131(82.4)	104(94.5)	235(87.4)	—	—	—	28(17.6)	6(5.5)	34(12.6)
	43期	162	108	270	139(85.8)	108(100.0)	247(91.5)	4(2.5)	0(0.0)	4(1.5)	19(11.7)	0(0.0)	19(7.0)
	44期	140	131	271	109(77.9)	131(100.0)	240(88.6)	2(1.4)	0(0.0)	2(0.7)	29(20.7)	0(0.0)	29(10.7)
	45期	134	138	272	112(83.6)	132(95.7)	244(89.7)	2(1.5)	0(0.0)	2(0.7)	20(14.9)	6(4.3)	26(9.6)
	46期	135	137	272	122(90.4)	135(98.5)	257(94.5)	4(3.0)	1(0.7)	5(1.8)	9(6.7)	1(0.7)	10(3.7)
	47期	145	126	271	132(91.0)	124(98.4)	256(94.5)	2(1.4)	0(0.0)	2(0.7)	11(7.6)	2(1.6)	13(4.8)
	合計	875	750	1625	745(85.1)	734(97.9)	1479(91.0)	14(1.6)	1(0.1)	15(0.9)	116(13.3)	15(2.0)	131(8.1)
	A課程全体	42期	103	67	170	86(83.5)	65(97.0)	151(88.8)	—	—	—	17(16.5)	2(3.0)
43期		100	72	172	84(84.0)	72(100.0)	156(90.7)	4(4.0)	0(0.0)	4(2.3)	12(12.0)	0(0.0)	12(7.0)
44期		88	81	169	69(78.4)	81(100.0)	150(88.8)	2(2.3)	0(0.0)	2(1.2)	17(19.3)	0(0.0)	17(10.1)
45期		86	82	168	67(77.9)	78(95.1)	145(86.3)	2(2.3)	0(0.0)	2(1.2)	17(19.8)	4(4.9)	21(12.5)
46期		79	91	170	72(91.1)	90(98.9)	162(95.3)	2(2.5)	0(0.0)	2(1.2)	5(6.3)	1(1.1)	6(3.5)
47期		84	85	169	78(92.9)	84(98.8)	162(95.9)	2(2.4)	0(0.0)	2(1.2)	4(4.8)	1(1.2)	5(3.0)
合計		540	478	1018	456(84.4)	470(98.3)	926(91.0)	12(2.2)	0(0.0)	12(1.2)	72(13.3)	8(1.7)	80(7.9)
A・小学校		42期	76	41	117	65(85.5)	40(97.6)	105(89.7)	—	—	—	11(14.5)	1(2.4)
	43期	59	43	102	53(89.8)	43(100.0)	96(94.1)	3(5.1)	0(0.0)	3(2.9)	3(5.1)	0(0.0)	3(2.9)
	44期	57	51	108	47(82.5)	51(100.0)	98(90.7)	1(1.8)	0(0.0)	1(0.9)	9(15.8)	0(0.0)	9(8.3)
	45期	57	45	102	47(82.5)	43(95.6)	90(88.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	10(17.5)	2(4.4)	12(11.8)
	46期	50	50	100	45(90.0)	50(100.0)	95(95.0)	2(4.0)	0(0.0)	2(2.0)	3(6.0)	0(0.0)	3(3.0)
	47期	51	45	96	47(92.2)	44(97.8)	91(94.8)	1(2.0)	0(0.0)	1(1.0)	3(5.9)	1(2.2)	4(4.2)
	合計	350	275	625	304(86.9)	271(98.5)	575(92.0)	7(2.0)	0(0.0)	7(1.1)	39(11.1)	4(1.5)	43(6.9)
	A・中学校	42期	27	23	50	21(77.8)	22(95.7)	43(86.0)	—	—	—	6(22.2)	1(4.3)
43期		36	20	56	27(75.0)	20(100.0)	47(83.9)	1(2.8)	0(0.0)	1(1.8)	8(22.2)	0(0.0)	8(14.3)
44期		28	23	51	19(67.9)	23(100.0)	42(82.4)	1(3.6)	0(0.0)	1(2.0)	8(28.6)	0(0.0)	8(15.7)
45期		27	21	48	18(66.7)	20(95.2)	38(79.2)	2(7.4)	0(0.0)	2(4.2)	7(25.9)	1(4.8)	8(16.7)
46期		27	26	53	25(92.6)	26(100.0)	51(96.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(7.4)	0(0.0)	2(3.8)
47期		28	26	54	26(92.9)	26(100.0)	52(96.3)	1(3.6)	0(0.0)	1(1.9)	1(3.6)	0(0.0)	1(1.9)
合計		173	139	312	136(78.6)	137(98.6)	273(87.5)	5(2.9)	0(0.0)	5(1.6)	32(18.5)	2(1.4)	34(10.9)
A・養護学校		42期	0	3	3	0(—)	3(100.0)	3(100.0)	—	—	—	0(—)	0(0.0)
	43期	5	9	14	4(80.0)	9(100.0)	13(92.9)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(20.0)	0(0.0)	1(7.1)
	44期	3	7	10	3(100.0)	7(100.0)	10(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	45期	2	16	18	2(100.0)	15(93.8)	17(94.4)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(6.3)	1(5.6)
	46期	2	15	17	2(100.0)	14(93.3)	16(94.1)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(6.7)	1(5.9)
	47期	5	14	19	5(100.0)	14(100.0)	19(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	合計	17	64	81	16(94.1)	62(96.9)	78(96.3)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)	2(3.1)	3(3.7)

	在籍者			進級(%)			仮専攻(%)			留年(%)			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
A課程・文系	42期	63	33	96	50(79.4)	33(100.0)	83(86.5)	—	—	—	13(20.6)	0(0.0)	13(13.5)
	43期	56	41	97	48(85.7)	41(100.0)	89(91.8)	3(5.4)	0(0.0)	3(3.1)	5(8.9)	0(0.0)	5(5.2)
	44期	50	45	95	44(88.0)	45(100.0)	89(93.7)	1(2.0)	0(0.0)	1(1.1)	5(10.0)	0(0.0)	5(5.3)
	45期	45	51	96	37(82.2)	50(98.0)	87(90.6)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	8(17.8)	1(2.0)	9(9.4)
	46期	46	48	94	41(89.1)	48(100.0)	89(94.7)	2(4.3)	0(0.0)	2(2.1)	3(6.5)	0(0.0)	3(3.2)
	47期	46	48	94	43(93.5)	47(97.9)	90(95.7)	2(4.3)	0(0.0)	2(2.1)	1(2.2)	1(2.1)	2(2.1)
	合計	306	266	572	263(85.9)	264(99.2)	527(92.1)	8(2.6)	0(0.0)	8(1.4)	35(11.4)	2(0.8)	37(6.5)
A課程・理系	42期	35	24	59	31(88.6)	23(95.8)	54(91.5)	—	—	—	4(11.4)	1(4.2)	5(8.5)
	43期	35	26	61	28(80.0)	26(100.0)	54(88.5)	1(2.9)	0(0.0)	1(1.6)	6(17.1)	0(0.0)	6(9.8)
	44期	31	28	59	22(71.0)	28(100.0)	50(84.7)	1(3.2)	0(0.0)	1(1.7)	8(25.8)	0(0.0)	8(13.6)
	45期	35	23	58	27(77.1)	21(91.3)	48(82.8)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	8(22.9)	2(8.7)	10(17.2)
	46期	28	32	60	26(92.9)	31(96.9)	57(95.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(7.1)	1(3.1)	3(5.0)
	47期	35	26	61	32(91.4)	26(100.0)	58(95.1)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(8.6)	0(0.0)	3(4.9)
	合計	199	159	358	166(83.4)	155(97.5)	321(89.7)	2(1.0)	0(0.0)	2(0.6)	31(15.6)	4(2.5)	35(9.8)
A課程・実技	42期	5	10	15	5(100.0)	9(90.0)	14(93.3)	—	—	—	0(0.0)	1(10.0)	1(6.7)
	43期	9	5	14	8(88.9)	5(100.0)	13(92.9)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(11.1)	0(0.0)	1(7.1)
	44期	7	8	15	3(42.9)	8(100.0)	11(73.3)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(57.1)	0(0.0)	4(26.7)
	45期	6	8	14	3(50.0)	7(87.5)	10(71.4)	2(33.3)	0(0.0)	2(14.3)	1(16.7)	1(12.5)	2(14.3)
	46期	5	11	16	5(100.0)	11(100.0)	16(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	47期	3	11	14	3(100.0)	11(100.0)	14(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	合計	35	53	88	17(77.1)	51(96.2)	78(88.6)	2(5.7)	0(0.0)	2(2.3)	6(17.1)	2(3.8)	8(9.1)
B課程全体	42期	56	43	99	45(80.4)	39(90.7)	84(84.8)	—	—	—	11(19.6)	4(9.3)	15(15.2)
	43期	62	36	98	55(88.7)	36(100.0)	91(92.9)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(11.3)	0(0.0)	7(7.1)
	44期	52	50	102	40(76.9)	50(100.0)	90(88.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	12(23.1)	0(0.0)	12(11.8)
	45期	48	56	104	45(93.8)	54(96.4)	99(95.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(6.3)	2(3.6)	5(4.8)
	46期	56	46	102	50(89.3)	45(97.8)	95(93.1)	2(3.6)	1(2.2)	3(2.9)	4(7.1)	0(0.0)	4(3.9)
	47期	61	41	102	54(88.5)	40(97.6)	94(92.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(11.5)	1(2.4)	8(7.8)
	合計	335	272	607	289(86.3)	264(97.1)	553(91.1)	2(0.6)	1(0.4)	3(0.5)	44(13.1)	7(2.6)	51(8.4)
B・文化社会	42期	22	36	58	20(90.9)	34(94.4)	54(93.1)	—	—	—	2(9.1)	2(5.6)	4(6.9)
	43期	34	24	58	29(85.3)	24(100.0)	53(91.4)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(14.7)	0(0.0)	5(8.6)
	44期	21	42	63	20(95.2)	42(100.0)	62(98.4)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(4.8)	0(0.0)	1(1.6)
	45期	21	41	62	21(100.0)	41(100.0)	62(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	46期	29	31	60	29(100.0)	31(100.0)	60(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	47期	24	34	58	20(83.3)	33(97.1)	53(91.4)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(16.7)	1(2.9)	5(8.6)
	合計	151	208	359	139(92.1)	205(98.6)	344(95.8)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	12(7.9)	3(1.4)	15(4.2)
B・生産科学	42期	34	7	41	25(73.5)	5(71.4)	30(73.2)	—	—	—	9(26.5)	2(28.6)	11(26.8)
	43期	28	12	40	26(92.9)	12(100.0)	38(95.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(7.1)	0(0.0)	2(5.0)
	44期	31	8	39	20(64.5)	8(100.0)	28(71.8)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	11(35.5)	0(0.0)	11(28.2)
	45期	27	15	42	24(88.9)	13(86.7)	37(88.1)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(11.1)	2(13.3)	5(11.9)
	46期	27	15	42	21(77.8)	14(93.3)	35(83.3)	2(7.4)	1(6.7)	3(7.1)	4(14.8)	0(0.0)	4(9.5)
	47期	37	7	44	34(91.9)	7(100.0)	41(93.2)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(8.1)	0(0.0)	3(6.8)
	合計	184	64	248	150(81.5)	59(92.2)	209(84.3)	2(1.1)	1(1.6)	3(1.2)	32(17.4)	4(6.3)	36(14.5)

表5 入学年度別の進級・卒業状況

		H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9
42 期	2 回 生	269	34	14	7	4		
	3 回 生		235	17	7	2	1	
	4 回 生			235	38	6	3	3
	卒業判定対象者			265	44	10	5	
	繰上卒業 卒業 卒業生累計			211	29	2	1	
年度末在籍者			54	15	8	4		
43 期	2 回 生		270	19	9	4	2	
	3 回 生			251	11	5	3	1
	4 回 生				250	37	12	9
	卒業判定対象者				268	43	14	
	繰上卒業 卒業 卒業生累計				220	25	2	
年度末在籍者				48	18	12		
44 期	2 回 生			271	29	14	9	3
	3 回 生				242	14	3	2
	4 回 生					242	35	12
	卒業判定対象者					268	44	
	繰上卒業 卒業 卒業生累計					219	23	4
年度末在籍者					49	21		
45 期	2 回 生				272	26	12	5
	3 回 生					246	14	2
	4 回 生						246	24
	卒業判定対象者						269	
	繰上卒業 卒業 卒業生累計						232	
年度末在籍者						37		

技系，男女で比較すると，割合は卒業遅延率のほぼ半分であるが，高低の傾向は相似している。平均留年率が10%を越えているのはAの中学校課程とBの生産科学課程であり，Aの系別では理系がやや高く，実技系は年度による変動が大きい。男性は女性の数倍も多く留年しており，男性の比率の高い課程や系の留年率が高くなっている。

平成5年度からは，総単位80以上を取得している学生については，受け入れ教官が承諾した場合，仮専攻を認めている。すなわち，仮に3年次に進級させ，その年度内に語学単位8以上を充足すれば，一般の進級学生と同等に4年の修養年限で卒業できるという特例である。この救済措置は対象数が少なく，恩恵を受けているのはA課程の男性に多いが，大部分が翌年4回生に進級しており，それなりの意味があるように思われる。

ま と め

最後に、表2に示された卒業遅延者と表4の進級者とを照合し、進級制度の適用以来、既に卒業生を出している42～45期（平成2～5年度の入学生）の学生の進級・卒業状況を合わせたのが表5である。卒業遅延者のうち半数以上が、その時点でまだ4回生になっておらず、4回生の中で卒業を延期する者は1割程度にすぎないことが読み取れる。つまり、卒業遅延の要因を分析するには、まず専門過程に進級できない者について検討する必要があると考えられるのである。また表5にみられる在籍者数の不整合に注目すると、離籍者の存在が浮上する。これも留年経験者から多く出ていることを考えなければならない。さらに、本稿では触れなかった学生一人ひとりの個別的な問題についても、今後より詳細に探索する必要があるだろう。

しかし一方、留年にも卒業遅延にも大きな男女差がみられるのは、より重要な問題点である。本学部の履修制度がこのように大きな男女差を生むほど女性に有利であるとは考えられないので、この差は結局のところ本人の学習態度に帰せられる可能性が大きい。女性の留年率や卒業遅延率はおおむね10%未満であって、長期留年者は極めて少ない。この程度であれば、あるいは「許容範囲」とも考えられる。女性がこれほど順調に卒業して行く本学部の履修制度が、著しく不都合であるとは考え難い。しかるに、同じ履修制度のもとで、男性はしばしば女性の数倍を越える留年者を出しており、しかもそれはしばしば長期化している。

今後の課題として、卒業遅延に結びつく有力な要因である進級の失敗が何によって生じているのかを探る必要があるだろう。この点に関しては、しばしば語学がネックになっていると言われるが、留年の原因が語学だけという事例は多くない。むしろ取得総単位の少ない学生が、その一環として語学単位も少ないというケースが大部分である。従って、この問題は学部の制度や運用によって解決する性質のものではなく、学生個人の学生生活全般に対する態度にかかわっていると考えられる。もし、入学試験での科目選択や志望動機、さらに卒業後の進路の明確さが就学意欲に結びついているとすれば、そうした動機面に働きかける必要があるかもしれない。さらに、男女の留年率や卒業遅延率の差を考慮すれば、特に男性に限って就学意欲を低下させている社会的要因、あるいは個別的要因をきめ細かく探っていかなければならないと思われる。

文 献

- 黒田正典 1978 大学生の留年 —— その原因と意味 松原治郎、岡堂哲雄（編）不安と病理
現代のエスプリ別冊 青年, 100-114.
- 宮沢秀次 1988 留年 西平直喜、久世敏雄（編）青年心理学ハンドブック 福村出版
Pp.729-743.
- 岨中 達 1971 教養課程留年と卒業遅延 京都大学学生懇話室紀要, 1, 42-53.
- 高橋裕行 1979 U P I にもとづく長期、短期留年者と非留年者の比較 日本教育心理学会第21
回総会発表論文集, 556-557.